

本立道生

特別編

なぜインヴィニオは深圳オフィスを作ったのか? ～中国がイノベーションの 発信地となる近未来～

インヴィニオアジアホールディングス代表取締役CEO
インヴィニオCHINA董事長 大城 昭仁

イノベーションの逆流

2011年、中国進出を決めたとき、ある雑誌のインタビューでその理由を聞かれ、「イノベーションの中心地に身を置くため」と答えた。ハーバード大学、ビジャイ・ゴビンダラ



小森 可視（こもり・よしみ）氏
インヴィニオCHINA華南統括・Producer-Business Creator
京都大学工学部電気電子工学科卒業後、Panasonic入社。入社後一貫してデバイスのBtoB営業を担当。日系大手総合電機メーカーへの顧客窓口・事業部における海外顧客向けセールスエンジニア等の経験を経て、2014年より深圳駐在。Huawei顧客窓口として、中国人幹部との折衝等を担当。18年インヴィニオCHINA入社。19年深圳オフィスを開設

ジャン教授の「リバース・イノベーション」に影響を受け、先進国で起こったイノベーションが、遅れた国に広がるという我々の固定観念は早晚、破壊されると信じていたからだ。

かつてアメリカはイギリスから学び、日本はアメリカから学んだ。中国も日本から多くを学んだ。新たな技術や商品は、まるで水が高いところから低いところに流れるように、「より進んだ国」で生まれ、「より遅れた国」に徐々に伝わっていく。我々は、無意識にそう信じてきた。しかし、今世紀に入ってから、その状況は変わってきている。インドで作られた充電式の携帯型心電計(ECG)がアメリカに広がり、東欧で作られたソフトウェアが世界で使われている。

いや、正確に言うと、「今世紀に入つてから」というのは間違いで、我々がそれを認識していなかつただけだった。身近な日本の例を挙げると、1924年に豊田佐吉が発明したG型織機の特許を、当時世界

最大手の英国プラット社が買った。これは、まさに勃興し始めたばかりの日本の片田舎の青年が、産業革命以来世界の工業を牽引してきた最先進国の技術を凌駕した例だ。実は、昔からリバース・イノベーションは普通のことだったのかも知れない。

現場感が力

何故、社会がまだ成熟せず、技術や人材の面で蓄積が乏しい国でイノベーションが起こるのか？ キーワードは、「現場感」ではないだろうかと考えている。先に挙げた携帯型心電計は、まだまだ病院が少ないインドで、機械を“使い回す”ために小型化され、頻繁に起こる停電に対応するため充電式になった。豊田佐吉は、機織りをする母の姿を日々目にして織機の改良を始め、工場の現場を頻繁に歩き回り、使う人の安全と健康を第一に、効率の向上を追求した画期的な織機を発明した。トマス・エジソンは、「必要は発明の母」という言葉を残

したが、イノベーションのスタートはまさにニーズであり、それを実現するのが技術でありビジネスモデルなのだ。

それに、これから、多くの日本企業の活動が向かう先はBRICsの後に続く国々になるだろう。それがどこかは企業によって違うだろうが、それに伴って、我々には日本人の発想を越えた、新しい商品やソリューションが求められることは間違いないだろう。それはどこから生まれるのか？ 私は、どう考えても、日本の本社から生まれるとは思えない。日本の硬直した組織制度の問題もあるが、それ以上に、社会制度や経済価値観が違います。要は、「必要としていない」のだ。新興国に向けたイノベーションは、やはり新興国で生まれる。経済の発展度や規模から考えて、中国がニーズの宝庫である可能性が高い。

日本企業のイノベーション

私は、先進国ではこれから、製品やビジネスモデルだけではなく、マネジメント方法のリバース・イノベーションも起こると考えている。新興国に通用する新しいグローバルマネジメントの形は、欧米や日本ではなく新興国で生まれる。そして、こちらについても経済の発展度や規模から、中国がその中心地になるとみている。現に、HUAWEIのガバナンスシステムは、ドイツ式をベースにしてはいるものの、どこにもなかったイノベーティブなものに見えるし、欧米の企業には買収した中国企業を本社の幹部に迎え、中国式を取り込もうとするようなどろも出てきている。日系企業の中国拠点は、最先端のノウハウを学び、試し、本社に伝える役割を担う日も近いのではないか。

そういった観点から、今、中国を代表するイノベーティブな都市・深

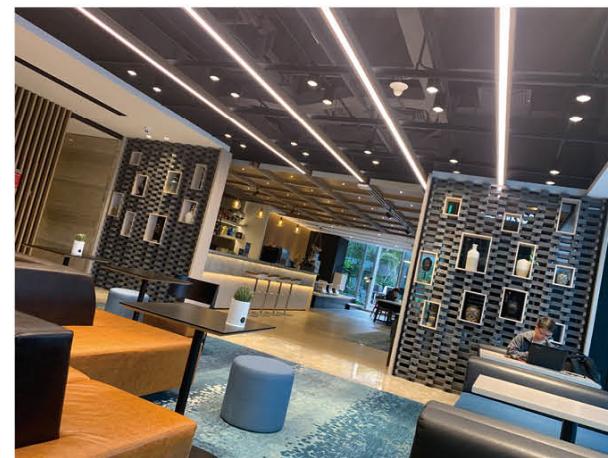


大城 昭仁

インヴィニオアジアホールディングス
代表取締役CEO
インヴィニオCHINA董事長

野村證券、独立系投資会社を経て、2004年にインヴィニオ入社。100社を超える上場企業において、次世代リーダーの育成、営業組織のパフォーマンス向上、組織のベクトル統合などのプロジェクトを主導。11年よりインヴィニオチャイナ董事兼総経理CEO、16年より現職。社団法人日本証券アナリスト協会検定会員(CIMA)、国際公認投資アナリスト(CFA)。上海市浦東新区外商投資企業協会常務理事。中国の大手研修雑誌の理事も務める。

圳、そのスタートアップの中心地である南山区に深圳オフィスを開設し、電子部品の商流に通じている小森を置いた。正直なところ、これまでどんなビジネスが出来るのか、そもそもビジネスになるのかも、今は分からぬ。しかし、大事なのは「現場感」を掴むことだ。そのためには現場に飛び込む必要がある。イノベーションのスタートは、現場のニーズなのだ。



深圳ハイテクパーク、インキュベーションオフィス内にオフィスを開設し、現地スタートアップ企業のネットワークに入り込む

INVENIO CHINA

Discover the Potential for Leadership
英必諾企業管理諮詢(上海)
(インヴィニオチャイナ)

1997年にマッキンゼーの日本によって設立。経営的視点から、人材育成、企業文化の変革や理念の浸透に取り組んでいます。研修やワークショップ、オフサイトミーティングの場を使い、組織・人材の潜在力をEduce=引き出して顕在化させる独自の手法に強みを持つ。

■上海市徐匯区天平路320弄25号(上海)
深圳市南山区海德三道166号 航天科技
広場B座4樓A20室04(ATALAS寰圖)(深圳)
☎021-6437-0001
✉http://www.invenio.cn/
✉infochina@invenio.jp